

【資料３】ターム物 RFR 金利タスクフォースにおけるこれまでの検討内容等

1. タスクフォースの設立経緯

- ・ 昨年６月に開催された検討委員会（対面会合）において、日本円 OIS に関する市場データにもとづくターム物リスク・フリー・レートの算出・公表主体が、当該金利の算出・公表に向けた検討や体制準備等を円滑に開始できるよう、実務的なサポートを迅速に行う枠組みが必要であると整理された。
- ・ これを受け、昨年８月に、検討委員会の協力のもと、タスクフォース（事務局：日本銀行）が設立（具体的なメンバーは別添１参照）。

2. これまでの検討状況

- ・ 会合を全７回開催し、①算出・公表にかかる全体スキームの整理、②OIS ブローカーが取引データ・気配値データを算出・公表主体に提供する際のデータフロー、③データフォーマットの具体的項目等について議論・検討を実施（スキームのイメージは別添２参照）。
- ・ また、算出・公表主体の応募先との意見交換、応募先によるプレゼンテーションを実施のうえ、応募先の評価に関する事項について議論・検討を行った。

3. 今後の取運び

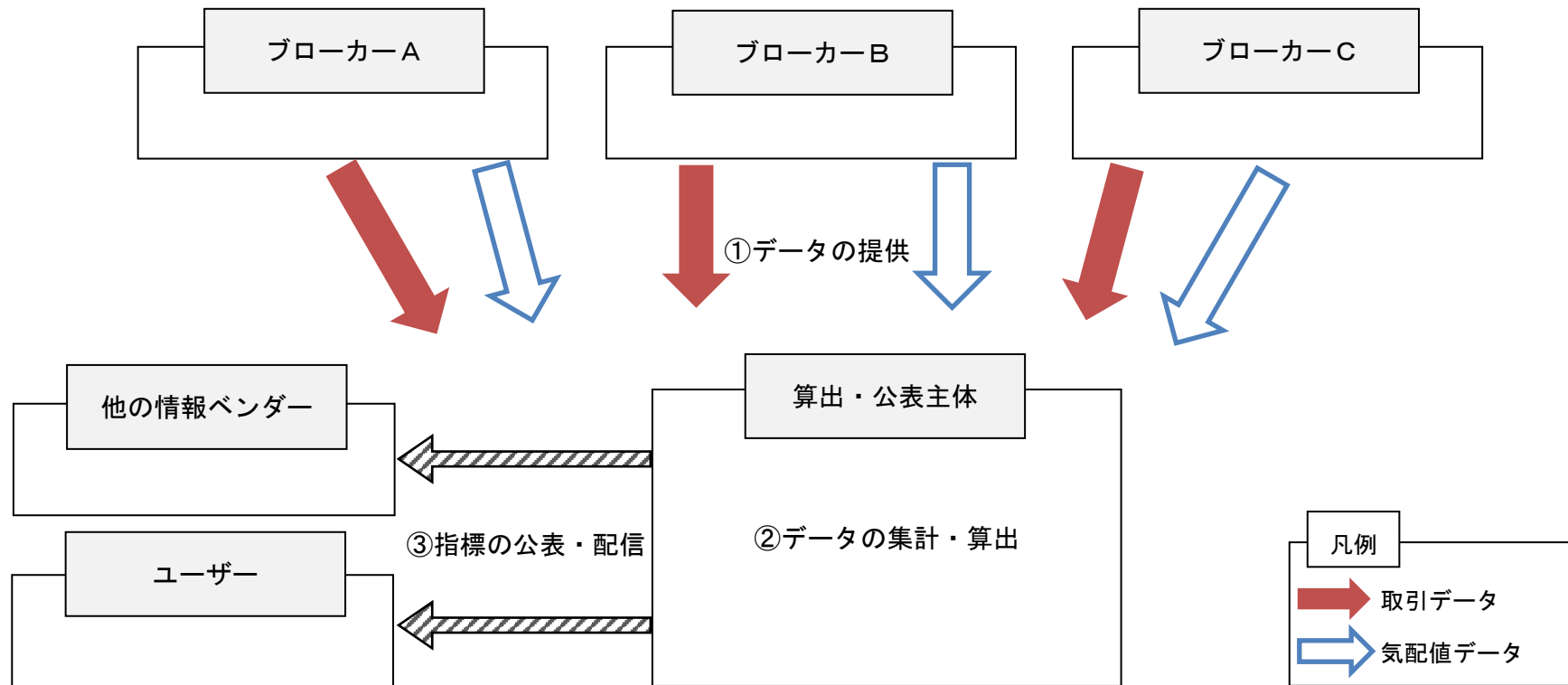
- ・ 今後は、頑健なターム物リスク・フリー・レートの構築に向けて、OIS 取引の流動性向上策等に関して、検討委員会の協力も得ながら検討を行う必要があるとの認識が共有された（別添３参照）。
- ・ 算出・公表主体が選ばれた後は、早期の参考値公表を目指して、事務・システム面での体制整備など実務的な対応が進められていくことになるが、タスクフォースとしても引き続きサポートしていくこととしたい。

以 上

ターム物 RFR 金利タスクフォースのメンバーリスト

メンバー	(参考)
三菱 UFJ 銀行	「ターム物金利構築に関するサブグループ」の共同議長
シティグループ証券	「ターム物金利構築に関するサブグループ」の共同議長
上田トラディション証券	データ提供者
タレットプレボン	データ提供者
東短 ICAP	データ提供者
三菱商事	金利指標ユーザー
国際スワップ・デリバティブズ協会	デリバティブに関する知見を有する先
金融法委員会	法令・コンプライアンスに関する知見を有する先
金融庁	—
日本銀行	—

ターム物リスク・フリー・レートの算出・公表にかかるスキーム（イメージ）

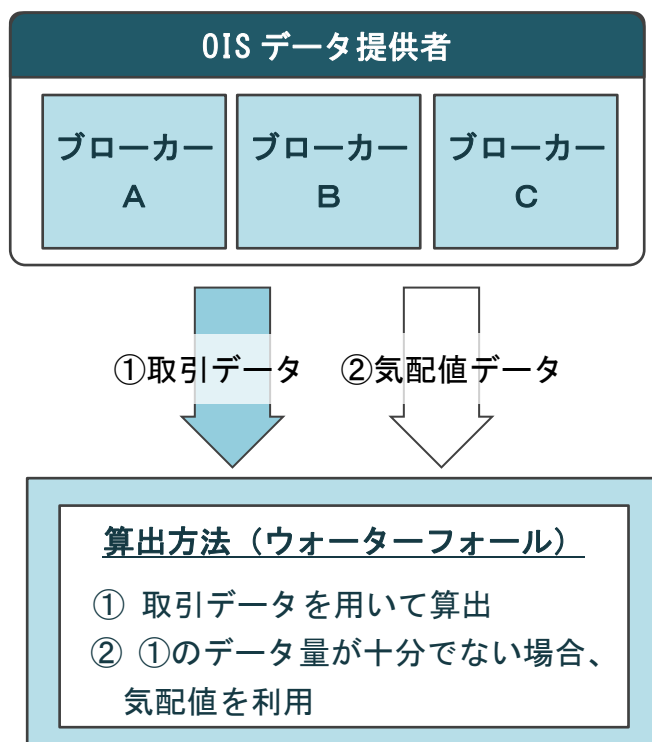


(注)現時点では、データ提供者として、上田トラディション証券、タレットプレボン、東短 ICAP を想定している。

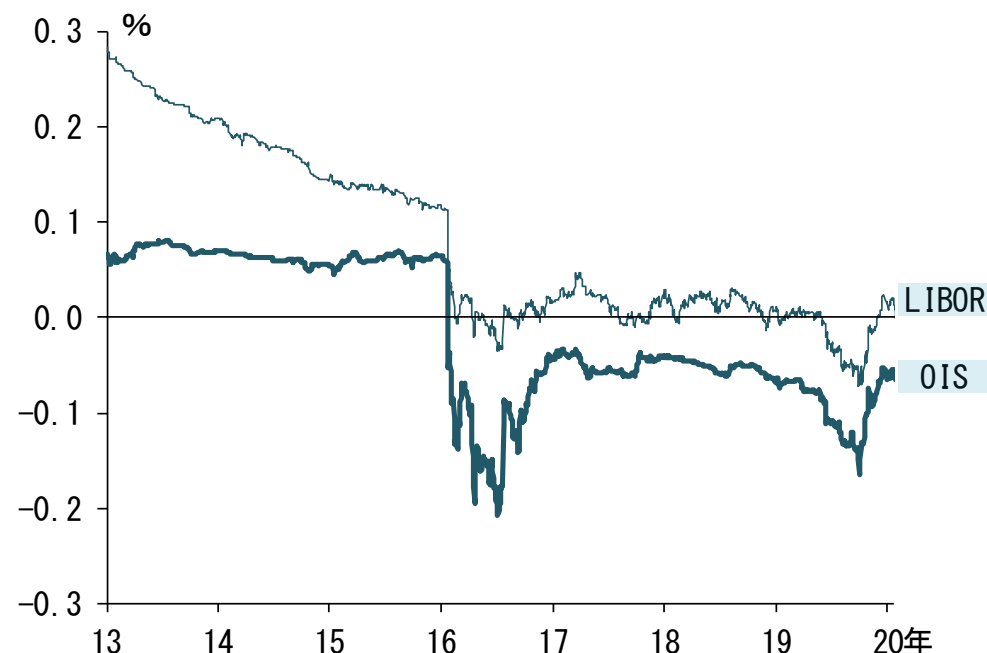
0IS 取引に基づくターム物リスク・フリー・レートの頑健性向上に向けた取り組み（案）

- ・ 市中協議文書でも示したとおり、ターム物リスク・フリー・レートの算出方法として、IOSCO 原則を踏まえてウォーターフォール構造を採用することとしているが、より頑健な指標とするためには、実取引・気配値ともに、市場慣行面での一層の整備を行い、0IS 取引を活性化させることが重要となる。
- ・ なお、日本証券クリアリング機構（JSCC）では、既に、0IS 取引の清算業務を行っているほか、0IS のイールドカーブを用いたマージン調整を行うなど、取引のインフラは一定程度整備されている。また、市場参加者においては、巨額の取引が行われている LIBOR スワップについて、LIBOR 公表停止後の姿を見据えた対応を進めていくことが求められる。

ターム物リスク・フリー・レートの算出方法



0IS レート（6か月物）の推移



（注）直近は、2020年1月31日。0ISはJSCCが公表するデータ。
（資料）Refinitiv